

自詠

呂

洞

賓

ひとり 高樓に上つて 八都を望めば

墨雲散るとして 月輪孤なり

茫茫たる 宇宙人無数

幾個の 男児か 是れ 丈夫

【作者】呂洞賓(七九四?年)・中国の仙人。八仙の一人。名を(巖、巖、岩とも書く。煜という説も)といい、洞賓は字である。号は純陽子。純陽真人とも呼び、或いは単に呂祖(りよそ)とも呼ばれる。蒲坂(現在の山西省)城隍(永樂鎮)で生まれた。祖父は礼部侍郎の呂渭、父は海州刺史の呂讓。師は鍾離権であり、終南山で秘法を授かり、道士となったとされる。その姿は背に剣を負った書生で、青年あるいは中年男性として描かれる。呂洞賓に関する資料として「純陽呂真人文集」「呂祖志」「呂祖全書」「呂祖彙集」などがある。徒は曹国舅など。韓湘子や何仙姑を含める説もある。